



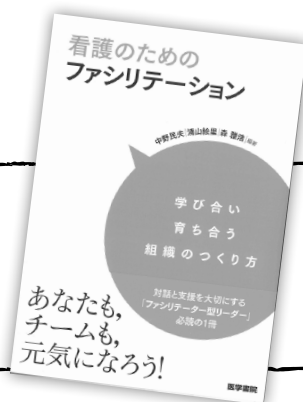
Book Review

評者: 渡邊奈穂

東邦大学看護学部 基礎看護学 講師

看護のためのファシリテーション 学び合い育ち合う組織のつくり方

編著: 中野民夫・浦山絵里・森雅浩 / 本体: 2400円＋税
発行: 医学書院 / TEL: 03-3817-5650



「学び合い、育ち合う」看護現場をつくるファシリテーションの実践書

本書は、“ファシリテーション”という言葉がまだ一般的に知られていない2003年からファシリテーション講座を始め、長年実践を蓄積してきた中野民夫氏、森雅浩氏と、看護師長の経験を活かし、ファシリテーションを医療・看護に応用してきた浦山絵里氏による「学び合い育ち合う」看護現場づくりに役立つファシリテーションの実践書である。

看護現場では「自律したスタッフ」の人材育成が重要な課題となっている。浦山氏は、そうした人材を育てるためには対話型組織が必要であることを訴えている。対話型組織には、①組織の中に安全で安心できる対話の場がある、②新しい挑戦に伴う小さな失敗を歓迎する風土がある、③挑戦を支援する仲間がいるという3つの要素が内在されていることが重要である。この3つの要素により、自律したスタッフが育まれ、変化を恐れない組織文化が醸成され、さらには新しい仕事の知恵を皆で創造できる「学び合い、育ち合う」場が成立すると述べている。そして、そのような自律した風土をつくるための方法としてファシリテーションのスキルが活躍するということである。

では、実際どのようにしてファシリテーションのスキルを身につければよいのだろうか。本書では、私たちが日常行っている会議や研修などでどのようにファシリテーション技法を取り入れたらよいか、著者らの実践例をもとに「参加型の場づくり」について、

企画とプログラムデザインの詳細な解説がされている。

一例として本書で紹介されている、中野氏が考案した「プログラムデザインマングラ」は、時計の文字盤のように時間の経過とプログラムの全体像を直感的に把握できる非常に有効なツールであり、会議や研修のファシリテーションをする際に、ぜひ参考にさせていただきたい。さらに本書では、プログラムデザインとファシリテーションの展開例として「定例会議」「病棟マネジメントチームミーティング」「参加型研修」の3つの例を紹介している。そのなかでファシリテーションのコツとして、ホワイトボードなどに書き出して全員の発言を見える化し、発言者と発言内容を切り離すことが重要であると述べている。会議では、役職や経験年数のある参加者が議論をリードしがちであるが、ちょっとした工夫で参加者が発言しやすく、対話が生まれる環境をつくり出すことができる。

看護の現場にファシリテーションを取り入れることは、一方通行になりがちな日々の会議や研修に対話を生み、参加者の主体性と創造性を引き出すことにつながる。本書は、看護におけるファシリテーションについて具体的な方法を示しており、看護管理者だけでなく看護学教育にかかわるすべての方にもお勧めしたい書である。